



グランシップマガジン

[ジー] vol. 63

GRANSHIP magazine

winter 2014

series わが羅針 第63回

柳家 三三

グランシップ館長あいさつ

館長 石塚 正孝

しずおかアーティスト・リレー⁴⁵

彫刻家 竹下 真澄

SPECIAL-1

2014年しずおか

連詩の会

「光の館」の巻

SPECIAL-3

リシャール・ガリアーノ 七重奏団

ふたつの「四季」～ヴァイヴァルディとピアノ～

coming soon I

グランシップ 静岡能

村松友視の文化漫遊⁴⁸

SPECIAL-2

ヤノフスキ × ベルリン放送交響楽団 × プラームス

春、究極ドイツを聴く。





ごあいさつ

グランシップは安全対策工事のため、5月から一部、8月から全館を休館させていただきましたが、このたび予定通り工事を終え、12月1日に再オープンをすることが出来ました。この間、県民の皆様にご迷惑をお掛けしましたこと改めてお詫び申し上げます。

今年度は長期間の工事ということもあり、「国立劇場 歌舞伎鑑賞教室」「グランシップ音楽の広場」「能楽入門公演」「人形浄瑠璃 文楽」「世界のこども劇場」などをグランシップ出前公演と称して、県内各地域に持ち出すことといたしました。この公演は地域の文化施設の協力を得て実施したもので、グランシップとしてこれだけのスケールでの実施は初めてと言って良く、お陰様で地域の皆様にも大変喜んでいただけたものと思っております。

再オープンした12月からは、「中学生のための音楽会」「グランシップ プレミアム・クリスマスジャズライブ」、1月に入り「静岡ガスPRESENTS グランシップ&静響ニューイヤーコンサート」「グランシップ静岡能」など恒例のラインナップに戻りますが、それぞれ一段の工夫を凝らして開催させていただきます。

ご承知の通り、グランシップは静岡県の文化芸術の発展とその普及のため、県の中心的役割を果たすことが期待されています。再オープンにあたり、今年度各地域との協力により得られた経験も含め、県民の皆様のさらなる期待に応えるべく、職員一同、力を尽くす所存でありますので、引き続き変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。再オープンのご挨拶とさせていただきます。

グランシップ館長 石塚正孝



Contents

グランシップ館長あいさつ 2

館長 石塚 正孝

しずおかアーティスト・リレー 3

彫刻家 竹下 真澄

SPECIAL-1 特集 4

2014年しずおか **連詩の会**
「光の館」の巻

coming soon I 10

グランシップ 静岡能

series わが羅針 第63回 11

柳家 三三

「ときには手綱を放して。」

SPECIAL-2 小特集 16

ヤノフスキ × ベルリン放送交響楽団 × プラームス
春、究極ドイツを聴く。

essay 村松友視の文化漫遊 20

アウェイの真っ只中での静岡応援 画/風鈴丸

SPECIAL-3 小特集II 22

リチャール・ガリアーノ 七重奏団

ふたつの「四季」～ヴィヴァルディとピアソラ～

お知らせ 25

グランシップマガジン「G.」終了のお知らせ

information a-go-go 26～30

- 公演情報
- Just Finished! / 「人形浄瑠璃 文楽」 ●プレゼント
- グランシップモニター募集 ●SPAC NEWS ●TOPICS
- SUPPORTER's VIEW READER's VIEW Editor's room



表紙アート ●望月 通陽 作品タイトル:「西の極点」
私が行くべき街、待っている場所がかならずあるはず。そこに立てた時の安心感を夢見る。探し回った挙句、そこは帰り着いたこの仕事場であったのだと思えたら、私に旅の必要もなくなるだろうか。ここでゲーテの格言をひとつ。「ふさわしい場所を得たすべての人間は永遠である。」

(2014年制作)

しずおか 45

アーティスト・リレー

彫刻家
竹下 真澄



「降りてくる言葉」

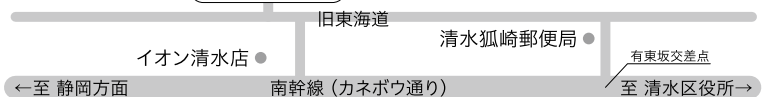
サイズ/W520mm×D150mm×H570mm 素材/楠、アクリル絵の具

私が生まれ育った環境は自然に恵まれ、幼いときは山や川へ駆け回っていました。山に入ると木々が生い茂る薄暗い空間が広がり、太陽の光を求め上昇しようとする樹木と、その隙間からゆっくりと下降してくる木漏れ日とその空間を演出し、荘厳な印象を与えてくれるのです。耳を澄ますと風の通り過ぎる音が聞こえ、大きな樹木がその体を揺らし、そこにもまたより大きな存在を感じさせる畏怖すべきものの存在を感じたのです。幼い私には、それらが幻想的な世界に見えたのでした。

タケシタ マスミ ●彫刻家。愛知県立芸術大学非常勤講師。静岡生まれ。静岡在住。静岡県立清水南高等学校芸術科卒業。愛知県立芸術大学大学院修了。2001年第21回国際瀧富士美術賞受賞。那須野が原国際彫刻シンポジウムIN大田原2004に招待作家。ほか個展、グループ展多数。

こだわりのたい焼き店、はじめました。

静鉄 狐ヶ崎駅



静鉄電車: 狐ヶ崎駅より徒歩9分

静鉄バス: 有東坂または平川地より徒歩1分

駐車場: 店舗前 2~3台

セブンイレブン ●

ももの家 ●

● イタリア軒

● すばげてい屋

● 葵堂

たい焼き茶屋 葵堂

静岡県静岡市清水区有東坂2丁目294番地13号

営業時間 11:00~16:00 年中無休

ご来店前のご予約がおすすめです。

☎ 054 (347) 2626

至 日本平 ↓



黒胡麻香るおんこ
¥150(税込)/匹



ときに心地よい揺らぎを見せながら、
三島の地に降り立った連詩四〇編。

はじめて三島に座を移して行われた「しずおか連詩の会」。三島は連詩の提唱者にして、本会の監修を務める大岡信氏のふるさとだ。今回もさばき手を務めた野村喜和夫氏は、「すなわちこは連詩のふるさとでもある」といい、「これまでとは異なる色合いの座にしたい」と自ら声をかけたのがこの度の顔ぶれである。

作詞家としても知られる覚和歌子氏、ロックミュージシャンの木下菘二氏、画家にして詩人の大岡重紀氏、そして、歌人で作家の東直子氏——と、なるほど異色。詩「筋は野村氏のみ。ほかはいずれも多芸多才で知られる人物ばかりだ。

詩人らが出

会った景色や句

二〇一四年しずおか

連詩の会

「光の館」の巻

三島の光や水、三嶋大社や楽寿園など、訪れた先の光景がふんだんに散りばめられた作品となった。

さらに今回は連詩の創作と並行して、各人が筆をとり、連詩のイメージ世界をビジュアルにした「パラレル連詩」も完成。また、巻かれた連詩の言葉をコピーして木下氏が作詞し、覚氏がメロディーをつけた楽曲が披露されたり…と、これまでにない試みも多彩に盛り込まれた。

なお、完成した連詩の発表会が大岡信ことば館にて開かれ、作者自らによる朗読と解説が行われた。

創作 二〇一四年十一月十三日(木)・十四日(金) 三島市民生涯学習センター

二〇一四年十一月十五日(土) 大岡信ことば館

発表 二〇一四年十一月十六日(日) 大岡信ことば館



発表の席に先立ち、5人の詩人は高校生とのワークショップ「詩人と語る言葉の語り」に参加。高校生たちはあらかじめ提示された五行詩(大岡信氏が第十回に創作したもの)に連なる三行詩を事前に創作。それらの詩を中心に詩人らと交流し、連詩の作法やその面白さ、創作の楽しみを体感した。

連

詩とは、連歌や連句の美学をベースにした創作現代詩で、本会を長年支えてきた大岡信氏は、その提唱者であり、第一人者。定まった形式はないが、本会では、五行と三行の詩を交互に繰り返すフォームをとっている。各詩にはさまざまな視点、モチーフが織り込まれ、別の詩人が後の詩を創作し繋いでいく。発表会では、作者による朗読のほか、繋がり为解决するための解説が行われ、以下は、作品全編とその解説の一部である。

光の館でやわらかく結ばれた五人。 ふるえる朝と死に場所、そして”あれ”。

【第一番〜第五番の解説】

和歌子…明るく寿ぎ、世界を拓いて前進させるのが第一詩の役割。「せせらぎ」は水豊かな三島、「光の館」とはここ大岡信ことば館。聖なる存在であるとして「鎮まっていた」と字を当てました。「扉はひらかれ」、心だけで移動する物語が始まるということ。その**亜紀**…「やしろ」は三嶋大社です。その上空を飛ぶのは私たち。「集合体」として自由に動きながらつながっていきます。ましよう、という意を込めています。

弦二…静岡で漁師をしている友人がいて、「少女」は私の娘、「母」は妻、「園児」は息子。読み返すと、この詩は、一体誰に届くのかという思い。深いところに抱えている社会や自分自身に対する憤りが滲んでいるような気がします。

喜和夫…ここまで光を基調としていたので、早いと思ったけど、闇の部分へ展開しました。前の詩に「山は青く」とあり、「青山」はお墓の意もありますので死に場所をテーマにしよう。ちなみにこの写真家は藤原新也です。**直子**…「インドの骸」から静岡に戻って「樹海」へ。鬱蒼とした樹海は濃密な命の集まりであり、死の集まりでもある。と。「あれ」は何かと聞かれましたが、あれはあれですよ、と。座ではしばらく「あれ」が流行りましたね。(笑)



創作の様子：於 大岡信ことば館



「大岡信ことば館」では、その日、連詩の先駆者である大岡信、谷川俊太郎の両氏が参加したベルリンでの創作連詩「ファザーネン通りの縄ばしこ」をビジュアルとサウンドで体感する展示会が行われていた。

一 絶え間ないせせらぎの都に

光の館は鎮まっていた

扉はひらかれるために

椅子は集うために

そしてことばは手渡すために

二 やしろの空を鳥たちが渡っていく

やわらかく結ばれた集合体は

風を孕んでふくらみながら

三 漁師が船を岸につけ、山は青く見える朝

電車から吐き出される男たちが胸ぐらをつかみ合う朝

少女が家出の中止を悔やみ、母が園児の鼻をかむ朝

吸い込んだ光を 私ら放つ

それは まだ ふるえていたが

四 たしかに人はどこでも死ぬことができる インドでは

路上の骸を写して 犬に喰われるほど自由だと

キヤプシオンをつけた写真家もいた

五 樹海にうかぶちいさなゆびが

あれをとつてきて、と言います

とりにいきたいとおもいます

こんなに海がふかくて

六 青空の底にめぐる

海流を追いなさい

ふたつの足がひれに変わるまで

七 古民家をいだく庭園で男は

大木の根につまづいて知ったのだ

これまでの歩きかたは

正しかったのだろうか

月はしろじろと浮かんでいる

八 水が澄んでいると

水かきもよく見えて

水鳥ははずかしい

和歌子

亜紀

弦二

喜和夫

直子

和歌子

亜紀

弦二

「意外や意外、まとまりのよい会でした。空中分解もあるかもしれぬと覚悟していましたが。(笑)」



野村 喜和夫

のむら きわお

詩人。詩集『特性のない陽のもとに』で歴程新鋭賞、『風の配分』で高見順賞、『ニューインスピレーション』で現代詩花椿賞受賞など。評論『移動と律動と弦筆と』及び『萩原朔太郎』で鮎川信夫賞ほか、著訳書多数。英訳選詩集『Spectacle & Pigsty』で2012 Best Translated Book Award in Poetry (USA)を受賞。戦後世代を代表する詩人の一人として現代詩の最先端を走り続けている。1951年埼玉県生まれ。

「同世代が揃い、未来の同窓会のように連詩が巻きました。このメンバーだからこそ出た言葉が幾つもあります。」



覚 和歌子

かく わかこ

詩人・作詞家。平原綾香、SMAPなど多くの歌詞を提供。2001年『千と千尋の神隠し』主題歌『いつも何度でも』作詞でレコード大賞金賞。映画『ヤキチヤイカ』では谷川俊太郎と共同監督脚本、原作を担当。2012年より震災ドキュメンタリー『今日を守る』主題歌を届けて米全国各地の上映会に参加。朗読、翻訳、舞台演出など活動は多岐にわたる。詩集、エッセイ、絵本など著作多数。7月9日発売の自唱3rdアルバム『ベジタル』が好評。

「言葉でつながるだけでなく、絵を描いたり。多方面からつながった3日間が過ぎせました。」



大岡 亜紀

おおおか あき

画家・詩人。武蔵野美術大学日本画学科卒。岩絵具による抽象絵画を制作。また書籍の装画、新聞・雑誌の挿絵も数多く担当。個展で絵画作品と併せて詩をパネル展示する試みが続いているほか、近年は歌人とともに、短歌と詩を連ねていく『連詩歌』制作も行っている。詩集に『新バベルの塔』『ある時 はじめて』『光のせせらぎ』、訳書に『ビジュアル版伝記シリーズ』の『ミケランジェロ』と『レオナルド・ダ・ヴィンチ(共訳)』がある。

九 隠すことから始まるこの素晴らしき世界

アダムとイヴも

山梨側の富士も

あの日のメルトダウンも

そして詩の言葉のほんとうの意味も

十 ちちのみの父は声をあげているははその母しやがむそのそば

柿の実が地上におちる瞬間にしあがっている君の似顔絵

白い首、白い手足をふとのぼし三つの島のひとつにふれる

十一 タコのオスの喜びのない射精

のことを考え泡から出るヴァーナスに

戻れ汝の生誕のまえまで戻れ

とわめき想像の悪循環のなかでのたうつ

全くもって誰なんだこの俺は

十二 ああ それは私の声です

方々にぶつかって形はだいたい変わってますが

いつかの私の叫び声です

十三 まなざしの

揺らぎあらはに

言ひかはす

きみのその影

踏みしめるわれ

十四 いなくなった日は朝から雨だった

まっとうな河童だったと信じた

胎生か卵生かはとうとう教えてもらえずじまい

十五 あたにかいご飯の上に

花びらのようにしらすを散らし

大根おろしは陽に透けている

昨日会ったばかりの人の 名前

十六 通走する名前を追って

想起の網の目がひろがってゆく

スクナビコナでもないしオトタチバナでもない

十七 室と書こうとして

空と書いてしまう

ケシゴムで消して

また書いてしまう

今日は風がつよいです

喜和夫

直子

喜和夫

弦二

亜紀

和歌子

直子

喜和夫

弦二



「光の館」を核とした言葉の数々と、そこからの連想をもとに、全員で描いた「パラレル連詩」。タコは東氏作。

【第十番〜第十一番の解説】

直子…私は歌人です、楽寿園で見たものをモチーフに、短歌三首を入れてみました。「父」「母」も「白い首」「白い手足」も実はアルパカです。「君の似顔絵」は、パラレル連詩に描いた野村さんの顔なんです。

喜和夫…格調高い短歌の次に申し訳ありません。(笑)アルパカの「父」が「タコのオス」に。見知らぬ誰かが書いたんじゃないでしょうか。(笑)

【第十七番〜第十九番の解説】

弦二…字に落とす前に歌が書き上がっている場合があつて、音の自由さを文字にできないことがあるんですね。その逆に字でしか伝えられないこともある。これは今回、字を書き間違えてしまったときの自分の話です。

亜紀…私は絵を描いていますので、「書く」を「描く」にふつて洞窟画に。これは躍動的で生々しい筆致に感動したショーヴェの壁画のことです。

和歌子…前の詩が三万二千年前なら、今度は今から三万二千年後を書くのと。宇宙と同じように、文明も収縮と膨張を繰り返すのであるとすれば、「人」も「ことば」も減った世界になっているかもしれない。今の地球への警告のようなものを含めました。

十八 けものたちは鮮やかに なおも息づいていた
三万二千年前 洞窟にいた画家の
写しとる歡びに満ちた筆致のなかで

十九 あなたが狩りに出かけたので わたしは米を煮ました
昔すかいつりと呼ばれた朽ちる塔の足もと
立ち寄った旅人が また人が減ったようだと 言いました
あなたが黙るので わたしのことばも減っていきま
す
忘れたくないから うたに してくりかえすけれど

二十 日本一高い山が毎日見える窓の中の客人は
マグカップに泡立つ抹茶ラテを たたえて
千年のちの冬の夕暮れに 捧げるナイフを 研いだ

二十一 茶畑の こんもりと
撫でて見ようと手を出して
近づいて見れば大きくて
身を投げ出しても
包めやしない

二十二 脱皮をすませた蛇たちが まどろむ真夜中の
郵便配達夫は うすいまぶたを ふせて
夏服の少女のくるぶしの白さを 反芻する

二十三 あわい色をした桃の
重さとうぶ毛を感じつつ
剥こうかどうか迷っていた
隣に坐るきみの吐息は
「はい」の合図だった

二十四 うい 芽 あ 舌 あん 藻 まん
羅 にゆ井 枝 あつ背 長い
眼 出べ朱 永遠

二十五 陸言が途切れたら 繭になりましょう
そろいの羽を たたんだ眠りのふちで 聴く
長距離列車のきしきし
やがて経度を 追いかけるように
夜の鳶が地球をはがれていく

二十六 ここからだ と 橋を渡る列車の中の
どれがあなたか わからない
あの紺の服 あれに決めよう 手をふった

Oui, mais attends un moment
La nuit est assez longue
Mais dépêche-toi.

亜紀

和歌子

直子

弦二

直子

亜紀

喜和夫

和歌子

弦二

「自分の内なるポエジーを言葉にして過ごし、魂だけで関われる場の幸せを感じました。」



東 直子

ひがし なおこ

歌人・作家。1996年、第7回歌壇賞受賞。歌集に『青卵』『東直子集』『十階』、小説に『水銀灯が消えるまで』『とりつくしま』『さようなら窓』『ゆずゆずり』『らいほうさんの場所』『キオスクのキリオ』、エッセイ集に『千年ごはん』『耳うらの星』『鼓動のうた』、穂村弘との往復詩歌集『回転ドアは、順番に』など著書多数。その他、絵本テキスト、ミュージカル脚本あり。現代歌人協会理事。

「言葉に命を賭けている人と言葉を紡ぐ。これほどの贅沢な体験があるでしょうか。」



木下 弦二

きのした けんじ

音楽家。ロックバンド、東京ローカル・ホンのうたとギター、全楽曲の作詞・作曲を担当。東京ローカル・ホンは元のバンド名『うずまき』の頃からミュージシャンズ・ミュージシャンとして知られ、忌野清志郎、佐野元春、あがた森魚、久保田麻琴、友部正人、鈴木茂などに高く評価されてきた。また、バンド以外にソロ活動や楽曲提供も行っている。弾き語りならでの表現や、その独特のギタープレイのファンも少なくない。

「連詩は座でつくるもの。そんな大岡信さんの言葉をあらためて実感いたしました。」



司会：桜井 洋子

さくらい ようこ

NHKアナウンサー。

二十七 うちの奥さんフラワーアレンジメントの講師なんだ

へえ

小さな穴のあいた岩の中を 清潔な湯が通りぬけていく
赤ん坊が泣いている 生まれたことを泣いている
筆の先からしたたる絵具

二十八 森ひそやかにほぐくみて

あをあをとひるがる

ひこばえの夢

二十九 みるべきものはつねに隙間にあらはれる

あれはいつのことだつたらう 木洩れ陽を浴び
それを恩寵のやうに感じた不思議に
うたれてゐたそのとき 樹間の向かふに

燦然と羽衣をひるがへす《彼女の薫る肉體》をみた。

三十 なおらない衣装フェチだろうが

婚活にくじけた末のやけくそだろうが

そもそも愛は泥棒なのだから

三十一 もうね 病気なのよ

ホームズが好きになるとね

もう 全部知りたいし 集めたいのね

それでさ コナン・ドイルより偉くなっちゃって

「マザリンの寶石」はニセモノだっ なんて言っただ

三十二 何人子どもが生まれても贋作のような気がするの

で11人目でとうとうサッカーチームを作るしかなかった
本気を出すと これがけっこう強い

三十三 ペナルティーキックを待つゴールキーパー

だけではない ウラジミールはゴドーを 星は星の爆発を

そして納屋は放火魔によって火をつけられるのを いまかいまかと
待つている その息苦しきさではちきれんばかりの
いまここ それが宇宙だ

三十四 二百余年を経てよみがえる

エジプト文字をひらいた鍵

その名はロゼッタ 彗星をひもとくために

三十五 ガラスが夜の鏡になるとき

中間子同士が協力しあつて

新しい白い延長コードを圏外へのばし

充電が終わるまで

狛犬のあくびをながめる

直子

亜紀

喜和夫

和歌子

弦二

和歌子

喜和夫

亜紀

直子



発表会の終わりに披露された連詩の言葉をコラージュした楽曲「そしてことは手渡すために」は、普段の役割を入れ替え、詩構成を木下弦二氏、作曲を覚和歌子氏が担当した。



発表会の様子：於 大岡信ことば館

連詩の神様に導かれた最終節
幕を引き、幕を開ける「布」。

【第三十六番〜第四十番の解説】

弦二…時空が曲がっているから光が曲がって見えるけど、光は本当はまっすぐなんですね。へそ曲がりに見えるけど、自分はまっすぐなんだと、そんな気持ちを書きました。

和歌子…前の36詩が拳句(最終句)に向かつて歩いているイメージだったので、37詩は三次元から四次元にして連詩の神様に登場してもらいました。パソコンを「のぞきこんだり」、そっちじゃないと行き先を「そらしたり」するのは、連詩の神様だったり、私たち五人のことだったり。

喜和夫…大岡信さんが連詩は普段の自分を空っぽにする必要があると言っていました。自分で一杯だと神様が入る余地がないですよ。これは連詩を巻いている我々の状態。「落書き」はパラルレル連詩のことも指しています。
亜紀…前の素晴らしいイメージをどう次に渡そうかと考えました。普通の文脈では成立しない部分も、私の生理的な感覚の表現になっています。

直子…前の詩に森の中で踊るシーンをイメージしました。楽しい踊りに幕を引く「布」は、新しい世界を広げる扉でもある。「神様の瞳」は三嶋大社にいた鹿、そして、その瞳に湛えられた「うつくしい水」。第一詩で覚さんが書いた「扉」につながり、「水」は最初の「せせらぎ」につながっています。

三十六

まっすぐ歩いてます
時空が重力で歪んでいるから
まがつて見えるけど

弦二

三十七

のぞきこんだりふれたりそらしたりしながら
つれそつていてくれるもの
ときめきのいのちづなのかたはしを
はなさずにいてくれるもの
みえないけれどいちばんまぶしいもの

和歌子

三十八

がらんとしたきょうの私たちに
あすの誰かが入り込み 私たちの内なる壁を
ごらん なにやらすてきな落書きで埋め尽そうとしている

喜和夫

三十九

抱きしめたくなる いつでも
ふるえるように流れる調べ
響くようにかがやく色
いざなうようにつづく道
あなたと踊る かるやかな時間

亜紀

四十

音が止み、布がひるがえる
神様の瞳から汲み上げたうつくしい水を
それぞれのひらでうけとめる

直子

創作 二〇一四年十一月十三日(木)

於 三島市民生涯学習センター

二〇一四年十一月十四日(金)

三島市民生涯学習センター

二〇一四年十一月十五日(土)

大岡信ことば館(Z会文教町ビル3階会議室)

参加者 詩人 覚 和歌子

大岡 亜紀

木下 弦二

野村喜和夫

東 直子

発表 二〇一四年十一月十六日(日)

於 大岡信ことば館(Z会文教町ビル3階ホール)

Coming Soon



能「頼政」
山階彌右衛門



吉祥招く好演目は、
まさに新春一番のお年玉。



能「吉野天人 天人揃」
観世芳伸



©観世宗家
©公益社団法人能楽協会

グランシップ静岡能

2015.1/24(土) 14:00開演 (13:30開場)

中ホール・大地 全席指定
一般 5,100円 子ども・学生 1,000円

能「頼政」	シテ 山階彌右衛門
能「吉野天人 天人揃」	シテ 観世芳伸
狂言「仏師」	山本泰太郎

現・観世流宗家や山階彌右衛門、観世芳伸の御祖父にあたる二十四世宗家は、お正月の初会能で「翁」を勤める際、へまことに目出度い心持に溢れ、よくぞ能の家に生れて来たと思ふ」と著書に記した。

観客にとってもお正月の能楽鑑賞は（翁に限らず）心身が浄化するような、縁起が良いような気がするものだ。敷居が高い低いということではない。それは初詣に似ていて、背筋の伸びもいつものそれとはやはり少し違うように思う。

さて、縁起よろしく新春の吉例となった「グランシップ静岡能」。このたびも観世流能楽師によるお正月にふさわしいひとときになること請け合いだ。

まずは能（頼政）。これは源頼政が自害した平等院に幽霊として現われ、平家に敗れた様子を旅の僧に語ってきかせる修羅物だが、修羅の苦しみや心情のみならず、前場では歌人としての才、後場は武将としての才が描かれ、文武に名高い頼政がうかがえる一曲である。

一方、「吉野天人 天人揃」は、吉野に花見にでかけた都人が天人と出会う物語で、華やかな舞が見どころ。しかも通常は天人が一人で舞う場面にツレの天人も登場しての相舞は、小書（特殊演出）によるもの。まさにお正月のお年玉といえよう。

さらに偽の仏師が吉祥天の仏像になりすまそうとする狂言（仏師）…と楽しみ尽きない演目の揃い踏み。年明けに吉祥を招くがごとく参られ候へば嬉しき…だ。

柳家

三三三三三三

ときには手綱を放して。

「結末を知っていて、そこに向かって行動する人なんていませんよね。だから、僕も高座では先のことを考えずにしゃべりだすんです。すると、まれに登場人物が想定外の台詞をしゃべりだしたりして。以前はそんなことはあつてはいけなと思っていましたが、今は手綱を放して、お好きなように、ですよ。」

名人より目立つ、三三三という名前。

世間の評価が上がれば上がるほど、そうじゃない、と自ら火消しにまわる。しかし、そんな様子はお構いなしに人気は鰻登り。今や都内ではチケットが取れない落語家の一人だ。「自分は怠け者」と言うが、四十七日間で四十七都道府県を落語会で巡ったり、大作に挑戦したり。狂言や浪曲、声優と他流試合も厭わない。まだまだ、と自身にハッパをかけながら、昨日とは違う今日を練り出す落語家に、世間はますます興味津々なのである。

——小学生のときに落語の楽しさに目覚めて、中学で噺家になろうと心を決め、高校卒業後すぐに弟子入りと、まさに落語一直線の人生ですね。

「いやいや、好きになったものは何でも

やつてみたいと思うほうで、漫画家になりたいと思ったこともあるし、恐竜に夢中のときは化石を掘って暮らす人になりたいと思ったこともある。相撲取りに憧れたこと

もありました。ただ、それらは夢のままで終わりましたが、落語は中学校での進路選択のタイミングとたまたま合ったといいましょうか。僕はね、勉強するのが本当に嫌で高校には行きたくなかったです。じゃあ、どうすればいいかと考えたら、そうだと落語家になればいいと。つまり落語家になりたかったのが半分、学校に行きたくなかったのが半分：以上かなあ。」

——それで柳家小三治師匠のところに？
「ええ。中学二年のときに門を叩いたわけです。そうしたら、高校ぐらい出ておくと、もんだ、と言われまして。それで高校を出てあらためて行くと、いずれあきらめられるだろうとその場しのぎで言ったのに……って(笑)。」

——どうして小三治師匠だったのでしょうか。
「あれは中学一年生の夏休みですかね。親の勤めが東京でしたので、浅草芸芸ホールまで連れてってもらって一人で観たことがありました。そのときに出ていた一人が師匠だったんです。特別面白かったというのとは違って、この人がしゃべっている時間、空間の居心地がいいというか。まあ、これは後で理屈をつけた物言いではありませんけど。でも、この感覚は後々師匠の考え方にどにふれると腑に落ちる、ということはあるんですよ。」

——そもそも少年期に惹かれたのは、落語という芸能の世界でしょうか。それとも噺家という生業のほうに？
「どうでしょうか。子どもの頃から広くお笑いにふれて噺家になる人も多いと思います。僕は落語以外のお笑いをほとんど知らないですね。いわゆる漫才ブームは小学生のときでしたが、(ツーンビート)や(紳助・竜介)を見ていない。(オレたち)ひょうきん族もテレビでチラッと見た記憶がある程度です。小学一年

生の頃、たまたまテレビで聴いた廓噺が面白いなあと思って落語に興味を持ったわけですが、普段は子ども向けに書かれた落語の本、誰かが高座でしゃべった噺を読んで想像して楽しむのが好きでした。自分が登場人物になりきって噺の世界の中から事の成り行きを見ている。そういう感覚だったんでしょうね。いろんな仕掛けがいっぱいあって、最後にストンと落ちる。そういうしくみの面白さといえますか。よくできてるなあと思ったことを覚えてます。」

——でも、人前でしゃべるのは苦手だったとか。
「噺家になってから、しまった、人前でしゃべらなければならぬのか、と(笑)。こんなに楽しい落語を聴くだけではもったいないからしゃべろう、噺家になろうと思ったんでしょけど。今は自分が好きな落語をしゃべる、噺の世界をつくる、それを人が聴いて楽しいと思ってくれる……

そこまで込みで落語は楽しいと思っていま。そうでないと自己満足だけの世界に陥ってしまいますから。」

——ところで(三三)というお名前は字面的にも珍しいですね。
「でしよう？ 本当は、今の落語協会会長(柳亭市馬)が二つ目のときの名前(柳家さん好)をもらって予定だったんです。さん好兄さんといえば、柳家一門でもずっと期待されてきた人だったし、前座の頃、近所



柳家三三DVD集
「三三独演」(一)～(三)ノ巻 (ソニーミュージック)
入門20周年の節目の初DVDで、3枚組を3カ月連続でリリース。月例独演会から厳選18席が楽しめる。

ちやつた(笑)。朝、起きてくるなり、お前、三三な」と。正直、目の前が真っ暗になりました(笑)。でも、今はありがたいと思っっています。志ん生だ、小さんだ、談志だ、どんなに名人の名前が並んでいても、人の目は必ず僕の名前にいきますから。ただし、模様として、ですけどね(笑)。今でもサインするの、大変なんです。」

——耳で聴くと、とても風情があるお名前だと思えますが。

「そこなんです、うちの師匠が気に入っているのは。耳で聴く(さんざん)はスツとして心地いい。でも、字面を見ると間抜け(笑)。この落差がいいと。何の取り柄もなく、ダメ過ぎるところもない、そんな普通の子に何かアクセントをつけたかったんでしようね。大そう気に入っていました。」

——お名前以外では(笑)順風満帆な落語道を歩まれているように思われます。

「とんでもないですよ。僕はね、平たい言い方をすると、いい子に育ってきたんですよ。わが子思いでものわがりのいい親のもと、やんちゃで叱られてばかりの兄を教訓にちゃんと育ってきちゃった。それが芸人としてのコンプレックスでね。家庭環境や性格、行動に破綻するところがまったくないんですから。勉強が嫌いといいながら、中学ぐらいまでは授業を聴いていけば成績もトップクラスだったし、生徒会長もやりました。だからなのか、落語もちゃんとしたものをやるうとし過ぎた。外側だけを整えたってダメなのにね。」

【やなぎや さんざ】

落語家。中学の頃から寄席に通い、高校卒業後の1993年、柳家小三治に入門。同年10月前座名「小多け」で初高座。96年二ツ目昇進を機に「三三」と改名。2006年には真打に昇進。07年、平成19年度(第62回)文化庁芸術祭大衆芸能部門・新人賞、2010年に平成21年度・花形演芸大賞・大賞受賞のほか、受賞歴多数。07年公開の映画「しゃべれどもしゃべれども」では主演の国分太一に落語指導を行う。また、同年、映画「やじきた道中てれすこ」には大工の源ちゃんとして出演。10年より「ビッグコミックオリジナル」掲載の落語漫画「どうらく息子」の落語監修を務める。そのほかNHK教育テレビ「おかあさんといっしょ」(アニメ「パンツばんくろう」せんたこはっちゃん役)に声優として出演。同年代の中でも今もっとも注目される落語家のひとり。74年神奈川県小田原市生まれ。



落語の好きどころは?という問いに「一人でやれるところ」(笑)と即答。「漫才の人によく一人でやれますね、と言われますが、僕からすれば、よく人と合わせられるなど、自分一人で噺の世界を創れる。そこが落語の醍醐味ですね。」

子どもの頃の自分が喜ぶ落語を。

——落語の稽古というのは、どのようなものですか。

「僕は噺家になって二十年以上経ちますが、師匠に落語を教えてもらったことは一度もないんです。技術的なことよりも噺家に必要なのは人間的な魅力なんだと、そういうことを言葉というより、弟子としてお茶を淹れたり、着物を畳んだりしながら、噺家として生きている師匠の姿にふれることで学んできたような……うん、まだまだですけれども。魅力のある噺家が力まずしゃべるからお客さんも惹きつけられるわけです。演者が前にしゃしゃり出ると、お客さんの想像を邪魔してしまふ。さつきも言ったように、ちよつと前までの僕は言葉の技術を磨くことに一生懸命でね。面白いよりうまいほうがいいだろうと。しかも噺の面白さをきちんと伝えようと言葉尽くしすぎるところがあった。でも、自分とまったく同じ世界をお客さんに想像してもらおうだなんて不遜ですよ。街でふと嗅いだ香水で思い浮かべる顔が皆それぞれ違うように、思い描く世界が同じじゃなくていい。そう思ったらスッとラクになりました。お客さんとの間に噺の世界を描き出す。そこで僕の仕事はおしまい。あとはお客さん次第ということですよ。」

——確かに落語の面白さは、聴く人が自分の頭の中に噺の舞台を思いのままに描

ける、というところかもしれません。

「小学生の頃、落語のしくみが面白かったと言ったでしょう。そのせいか、よくできた噺に収めるために登場人物を動かす、そんなきらいがあったんです。今はまず登場人物ありき。彼らがオタオタと動いた結果、そういう噺になったのだと思えるようになった。そもそも結末を知っていて、そこに向かって行動する人なんていませんよ。だから、僕も細心の準備はした上で、高座では先のことを考えずにしゃべりだすんです。すると、まれに登場人物が思ってもみなかった台詞を勝手にしゃべる、なんてこともあります。以前はそんなことはあつてはいけなかつたと思いますが、今は手綱を放して、お好きなように、ですよ。そして、僕が今思うのは、落語が好きだった子どもの頃の自分が喜ぶ落語をやりたいということ。噺の世界の片隅で一緒に事の成り行きを見ている。そんな落語ができたらいいなと思っています。」

——グランシップには真打になった翌年のお正月にもご登場いただきましたが、来春の再登場にお喜びのファンも多いと思います。「僕は小田原の生まれなんですけど、北関東や東北の人は小田原を静岡としか思っていないので、まあ、同県人みたいなものです(笑)。芦ノ湖の水は静岡のものだしね。今回は後輩で落語界のホープ、(春風亭)一之輔さんにおんぶに抱っこで参ります。ぜひ、楽しみにしていただけだと思います。」

G



2015.3/14 (土) 12/21(日)チケット発売
グランシップ寄席—春うらら—
14:00開演
グランシップ6階 交流ホール
全席指定／一般 3,300円 こども・学生 1,000円
出演者／柳家三三、春風亭一之輔

しあわせの味、いつも



新鮮で美味しい
料理をお届けしたいから
野菜は畑まるごと
泥、付き、で
仕入れています。



畑の恵みを
新鮮なまま
ご家庭へお届け！





ヤノフスキ × ベルリン放送交響楽団 × ブラームス

究極ドイツを聴く。

東日本大震災の年、海外アーティストによる来日公演のキャンセルが相次ぐ中、

予定通りコンサートを行った数少ない音楽団体のひとつが

マレク・ヤノフスキ率いるベルリン放送交響楽団だった。

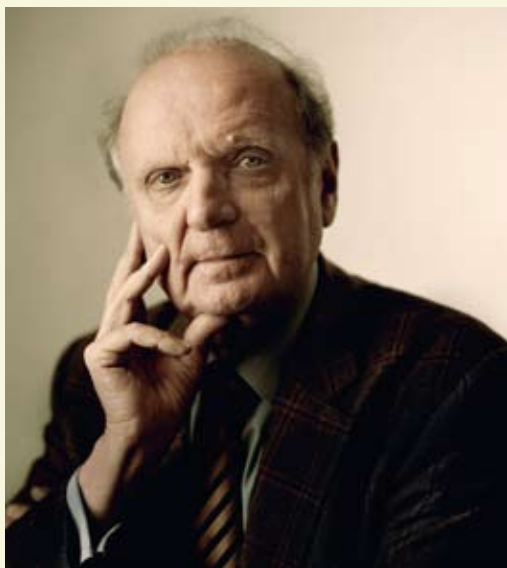
それは〈音楽に奉仕する指揮者〉と評されるヤノフスキらしい行動であり、

氏と思いを同じくするオーケストラだからこそその決断でもあった。

だから、来春のグランシップ公演については一層胸を熱くするファンも多いことだろう。

マレク・ヤノフスキ × ベルリン放送交響楽団 × ブラームス。

静岡にいながらにして得られる、この千載一遇の幸せを決して逃してはならない。



©Felix Brode

Marek Janowski

マレク・ヤノフスキ
という指揮者。

春、

音楽づくりにおいてもっとも重要なこととは？

そうした質問の答えに彼はよく“klarheit”という単語を使う。

明快さ、明晰さ—— そう訳すのが近いだろうか。

すべての音が明確に聴きとれる演奏であること。

それが氏の音楽哲学であるという。

隙のないドイツ・クラシックを聴かせるマエストロ、と聞くと、気難しく何やら近寄りづらいイメージだが、マレク・ヤノフスキは少し違う。たとえば緻密さという点、巨匠然としたそれではなく、数学的な緻密さに近く、オーケストラのスキルアップやレパートリーの組み合わせなどでは、マネージメント力や視野の広さ、懐の深さが見てとれる。それは幼少期よりピアノやヴァイオリンの才能に恵まれるも、大学では数学を専攻したというエピソードと決して無縁ではないだろう。また、フランス国立放送フィルハーモニーを一流オーケストラに導くなど、フランス圏での活躍もその一端にあるのかもしれない。さらに世界中の歌劇場で客演するなど、オペラ界での輝かしい経験も、氏の今をつくる大事なピースであるとも思える。ヤノフスキの詳しい来歴については、プロフィールを参照していただくとして、そんな氏が音楽づくりにおいてもっとも大事にしていること。それはすべての音が明確に聴きとれる演奏であることだという。スコアを丹念に読み込み、どんな小さな記しもすくいとって送り出す。だから、その音楽には隙がなく、一つ一つの音が見事なまでに立ち上がり、作品の輪郭をくっきりと映しだすのだ。

Marek Janowski

マレク・ヤノフスキ

Artistic Director & Principal Conductor 芸術監督・首席指揮者

1939年ワルシャワに生まれ、ドイツで教育を受けたヤノフスキは、サヴァリッシュに師事し、メトロポリタン・オペラ、バイエルン国立歌劇場をはじめ、欧米の主要歌劇場に客演。また、ドイツ系音楽の伝統を踏襲する屈指の名指揮者として、ドレスデン国立歌劇場管、ベルリン・ドイツ響、パリ管、ボストン響、フィラデルフィア管等のオーケストラを指揮。2002年秋にベルリン放送交響楽団オーケストラの芸術監督及び首席指揮者に就任。過去35年間にオペラの全曲録音、オーケストラ作品のチクルスを含む50点以上もの録音を通して指揮者として国際的評価を確立。ベルリン放送交響楽団とはR.シュトラウスの映画版『ばらの騎士』や、ブラームスのドイツ・レクイエム、シューマンの交響曲などのほか、ヘンツェやヒンデミット等のレコーディングも行っており、とりわけワーグナーの『ニュルンベルクのマイスタージンガー』全曲録音では高い評価を獲得。2010年～2013年には、ワーグナーの主要なオペラと楽劇10作品を本拠地ベルリンにて演奏会形式で上演し、大成功に導いた。「東京・春・音楽祭」でのワーグナー劇場作品演奏会形式企画では、2014年から「ニーベルングの指環」でNHK交響楽団と共演を開始。同プロジェクトは2017年まで継続する。

と、ベルリン放送交響楽団。 ヤノフスキ



Rundfunk-Sinfonieorchester Berlin (RSB)

オーケストラ激戦区ベルリンで現在、動員率を上げ続ける
円熟の域に達したマエストロとドイツ最古の楽団。
さらに高まる響きの質に世界中が注目だ。

かつて、ベルリンの東側と西側には同名のオーケストラがあった。その名はベルリン放送交響楽団。ドイツ再統一の後、旧西の同オケはベルリン・ドイツ交響楽団と改名。ベルリン放送響は、このベルリン・ドイツ響に知名度において長らく遅れをとっていたが、近年一気に注目されるようになった。その立役者こそ、2002年に芸術監督兼首席指揮者に就いたマレク・ヤノフスキである。

オーケストラ激戦区といわれるベルリンにおいて、存在価値のあるオケとして広く認知してもらうためには演奏レベルを上げることは大前提。それを果たすべく、氏は楽団員に常にプレッシャーをかけ続けたという。やがてその成果が見えはじめる。メンバーとの間に信頼が生まれた。今あるしなやかな人間関係は、苦難の果ての賜なのだ。耳うるさい地元ファンの心をつかみ、コンサート動員につなげた功績によって、氏はこのオーケストラと事実上の終身契約にあるとのこと。

現在、70代半ばで円熟の域に達したマエストロとドイツ最古の放送交響楽団。その蜜月は10年を超え、その音楽の質はさらに高まっているとも囁かれる。ワインならまさに今が飲み頃。今、聴きたいオーケストラの一つであることは疑いようがない。

Rundfunk-Sinfonieorchester Berlin (RSB) ベルリン放送交響楽団

1923年創立のドイツ最古の放送交響楽団。チェリビダッケ、ヨッフム、アーベントロート、レークナーら、大指揮者たちが首席指揮者を務め、R.シュトラウス、ヒンデミット、プロコフィエフ、シェーンベルク、ストラヴィンスキーをはじめ、20世紀を代表する大作曲家たちが指揮者として、あるいはソリストとして共演している。2002年以降、マレク・ヤノフスキが芸術監督兼首席指揮者に就任し、ドイツが誇る第一級の放送交響楽団としての評価を不動のものとしている。近年はベルリンおよび海外でのコンサート活動に加えて、ドイツ放送との共同制作によるラジオ放送やCD録音も数多く、その多くが著名な賞を受賞している。韓国と日本の定期的なツアーに加え、ヨーロッパ各地のフェスティバルやドイツ国内の音楽都市でもゲスト出演を果たしている。

ヤノフスキ と、ブラームス。

今回のプログラムはブラームス。それも交響曲が2曲も。
ドイツ音楽を極める名シェフ&名オーケストラが
ブラームスっていいなあ…きっとそう思わせてくれるはず。

ヤノフスキとベルリン放送交響楽団については、彼らによる近年最大のプロジェクト、ワーグナー・チクルス(Ⅱ特定の作曲家の作品を連続して演奏するコンサート)で知る人も多いことだろう。とくにヤノフスキは世界が認めるワーグナー指揮者ではあるが、それ以上にベートーヴェンやブラームスなど、ドイツ音楽の神髄を得意とする指揮者として挙げられる一人だ。

そして、今回のプログラムだが、これがうれしいことにブラームス。それも交響曲が2曲も聴ける。ドイツ音楽を極める名シェフと、ドイツの楽団らしくブラームスにぴったりの音色を聴かせるオーケストラ。氏は常々「音楽家の仕事は解釈である」といい、「解釈とは作品に奉仕することであり、自分を前面に出すことではない」とも語っているが、今回のブラームスもきつと解釈に解釈を重ねた、緻密で鮮烈な演奏をとどけてくれることだろう。ブラームスっていいなあ、ときどきと思わせてくれる。そんな感動をぜひグランシップでも!

ブラームス 交響曲第4番 ホ短調

美しいメロディの中に秘められた情熱と哀愁。ブラームス最後の交響曲で、ヤノフスキはこの作品について「ワーグナーの交響曲の練達において頂点といえる作品」と語ったことがある。震災の年に日本で聴かせてくれたのもこれだった。

ブラームス 交響曲第1番 ハ短調・ブラームス

3歳で書き始め、43歳で完成したブラームス最初の交響曲。発表当初、ベートーヴェンの第九に続く交響曲として「第10番」とも呼ばれたが、それを本人は好まなかったとか。個々の楽器の輝き、オーケストラの響きの充実感が堪能できる作品だ。

2015 3/20[金] マレク・ヤノフスキ指揮 ヘルリン放送交響楽団

●19:00開演(18:00プレトーク/17:45開場) ●中ホール・大地

チケットご購入特典:マエストロ・ヤノフスキによる「プレトーク」ご招待!(18:00~)

●全席指定 S席 12,300円 A席 9,800円 B席 7,200円 こども・学生 1,000円

指揮・芸術監督:マレク・ヤノフスキ 管弦楽:ベルリン放送交響楽団

曲目:ブラームス/交響曲第4番 ホ短調 作品98
ブラームス/交響曲第1番 ハ短調 作品68

事前レクチャー開催!

「西原 稔のブラームス塾」

2015 2/1[日] 15:00~16:30

●地下リハーサル室 ●要事前申込 700円

ブラームスの第一人者で桐朋学園教授の西原稔が本公演の聴きどころやブラームス音楽の魅力を自身のピアノとともに解説!

詳しくは公演情報P.27参照



今年の八月十二日、私は仕事で金沢へ行き、午前中はホテルの一室にこもり、じっとテレビを見ていた。甲子園における全国高校野球選手権大会の一回戦に、私の母校である静岡高校が静岡県を代表して出場するのを、遠い旅先から見守ろうというかまえた。午前中の約束を断って、ホテルの部屋のテレビ前に陣取る私の気分は、複雑だった。

それは、一回戦の相手が地元金沢の星稜高校であったためだった。何しろ地元は星稜一色であり、私はアウェイの真っ只中でただ一人、ひそかに母校を応援せざるを得ぬと決め、ホテルの一室に立てこもったのだった。前半は、すんなりリードした静岡に分があるか……という雰囲気だったが、何しろ相手は地方予選で九回裏に八点差を引っくり返した星稜高校だから油断がならない。いや、星稜高校はあの大逆転ですべての運を使い果たしたから、そうはいかないだろう。そんなことをあれこれ思っている、星稜のピッチャーが調子を上げてきた。すると、静岡に思いもかけぬエラーが出たりして、けっきょくは逆転負けという結果に終わった。

ホテルの部屋から静岡の同級生に電話をかけると、やはり致命傷となったエラーを悔やんでいた。だがすぐに気を取り直し、「あのねムラマツチャン、二年生が六人残るし一年生にいいピッチャーがいるんで、来年は強いだよ」としめくくった。来年は強いだよ……は過去にも何度か聞いたセリフのように思ったが、私は来年の静岡は強いらしい……と弱々しい眩やきを呑み込んで、部屋を出た。

ロビーでは、たっぴいま終わった試合についての会話が、陽気に交わされていた。みんな上機嫌のように思っていた。フロントの一人が私に目を向けた。「何しろ逆転の星稜ですから」と笑顔で言ったとき、私の中にムツとする気分が生じた。その笑顔が、試合中に意図した戦略としてあらず、星稜高校のナインの笑顔にかさなつたせいかもしれない。戦略で笑うなど、高校生としていかなものか……試合中にそう思った何度かの瞬間が、私の頭によみがえったりもした。

アウェイ真っ只中での静岡応援

(だけど、ここはアウェイの真っ只中……)

私はそんなセリフを噛みしめ、来年の静岡は強いらしいという思いをわざとふくらませた。それに、金沢は自分の好きなまちであり、星稜高校は松井秀喜の母校でもあり……と気持ちをしずめたのだったが、ふだん気づかぬふるさと愛、母校愛が自分の中に宿っていることに気づいて、いささかとまどつたのも事実だった。甲子園の高校野球はたしかに、ふだんは沈んでいる東京に住む私の故郷への思いを、あぶり出してくれるようなところがあるのだ。それにしても、敵の真っ只中で一室に立てこもつてのひそかなる応援は、まことに隠微な快感でもありました。



【むらまつともみ】作家。東京生まれ。小学校～高校時代を清水(現静岡市)で過ごす。慶応義塾大学文学部卒業後、出版社勤務を経て文筆活動に入る。小説、エッセイ等、著書多数。『時代屋の女房』で直木賞、『鎌倉のおばさん』で泉鏡花賞受賞。



不動産売却は 静岡セキスイハイム不動産に お任せ下さい。

現在**20,000**組超の
購入希望会員がいます。

高価格・早期売却できる理由

Point
1

**静岡トップクラスの不動産情報
「しずなび」に掲載します!!**

セキスイハイム不動産が提供する
静岡県の不動産・住宅情報総合サイト。

Point
2

**お客様だけのチラシを
新聞に折込します!!**

広告発行部数年間4100万部以上!
大量広告で購入希望者を見つけます。

Point
3

**売れなかったら
買い取ります!!
(買取保証制度あり)**

住み替えを急ぐ方は相談ください。
弊社買取査定額で買取致します。*

※諸条件・エリアによっては買取できない場合がございます。



お問い合わせはTEL、WEBで。

 **0120-816-009**

静岡セキスイハイム不動産株式会社

〒430-0926 浜松市中区砂山町325-20(水谷ビル3F)

■宅建業免許 / 静岡県知事(6)第10306号 ■(公社)静岡県宅地建物取引業協会会員



WEBでもお問い合わせいただけます!!

24時間 365日

TOPページ ▶ 売りたい方 ▶ 売却ページ

しずなび

静岡セキスイハイム不動産
イメージキャラクター
しずなび

ヴィヴァルディとピアソラ、ふたつの「四季」を奏でる

その男、ガリアーノ。

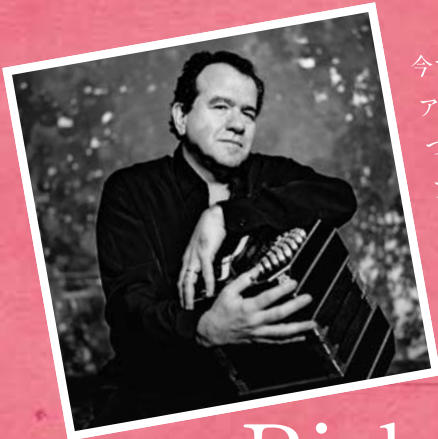


アコーディオンの巨星、
リチャール・ガリアーノがついに！

テレビの旅番組などでパリの街角が紹介されるとき、バックにはきまって華やかだけれど、どこか哀愁を帯びたアコーディオンが流れる。それはミュゼットといわれる音楽ジャンルで、フランスではどちらかというと古典的な音楽として扱われることが多い。いや、多かった。そう、リチャール・ガリアーノが世にあらわれるまでは――。

あるとき、その男の圧倒的なテクニックとスピリットに出会い、人々はミュゼットに新しい生命が吹き込まれたのを感じた。そして、誰もがアコーディオンという楽器の底知れぬ魅力の深みに喜んで落ちていったのである。人々はその男をこう呼んだ。(ミュゼットの革命児)と。

今ではジャズ・アコーディオンの第一人者だとか、あるいはかのアストル・ピアソラが唯一認めた蛇腹奏者などと、その名につく冠はさまざま。しかし、そのどれもが彼が唯一無二のアコーディオン奏者であることを物語っている。そのガリアーノが自らの七重奏団とともにグランシップに登場するという。しかもふたつの「四季」を携えて――。



Richard Galliano Septet

バロックとタンゴ。一本の線で
ふたつの「四季」がつながるとき。

ふたつの「四季」と聞いてピン!とくる人はおそらく音楽通だろうと思う。ヴィヴァルディ作曲の「四季」と、ピアソラの「ブエノスアイレスの四季」。片やバロック、片やタンゴ。異質とも思える組み合わせだが、この2つをテーマとするコンサートやCDは案外少なくない。

もっとも「四季」というタイトルの作品はほかにもある。ハイドン、チャイコフスキー、武満徹…。ただ、ハイドンはオラトリオ(聖譚曲)だし、チャイコフスキーは月ごとに1曲の全12曲1セット。一方、武満徹は単曲だ。春夏秋冬それぞれを象徴する独立した4つの曲の連作という点においては、ヴィヴァルディとピアソラのそれはなるほど同じだ。

しかし、もっと興味深い話がある。ピアソラはどうやらヴィヴァルディを意識して、「ブエノスアイレスの四季」を作曲したらしいというのだ。ヴィヴァルディが好きだった(と思われる)ピアソラと、そのピアソラと親交があり、彼を敬愛してやまないガリアーノ…つまり時代も距離も遥かに隔たれていたと思われた3者を結ぶ線は確かにあったということだ。

超クールに魅せる！
「ブエノスアイレスの四季」。

2013年6月、ガリアーノがリリースしたヴィヴァルディの「四季」は、とてつもなくクールだった。アコーディオンに精通する誰もが言う。彼のアコーディオンは鍵盤ではなくボタン式だから、流れの速いヴィヴァルディを演奏するのは至難の業……というより不可能に近いと。さすがヴィルトゥオーソ（名手）・ガリアーノだ。

「春」その第1楽章の冒頭は誰もが知っている。華やかにあふれた明るい響きは、日本の春の印象と同じ。ところが「夏」はちょっと違う。暗い気分が始まり、描かれているのは夕立や雷など、激しい気象。第3楽章のドラマチックなその旋律は、T.V.C.Mにもよく使われているのだが、お気づきだろうか。

一方、「秋」の第1楽章は、先ほどの「春」の喜びを実りの喜びに映したように始まる。収穫の祝い酒に酔って（第1楽章）、眠って（第2楽章）、夜明けには狩りへ（第3楽章）。ちなみに4曲はいずれも急・緩・急の3楽章で構成されている。最後の「冬」は静かに降り積もる雪から再びダイナミックな描写へと展開。最近の某クルマメーカーのCMがきっかけで人気が高まっているそうだ。

これらほとんど「和声と創意の試み」という12曲からなるヴァイオリン協奏曲集の中の

Antonio Vivaldi

1678-1741



最初の4曲で、ヴィヴァルディ自身が「四季」と命名したわけではない。では、「四季」として4曲1セットで世に出した人物は誰なのか。その人物こそ、稀代の仕掛人ではないだろうか。

アントニオ・ヴィヴァルディ Antonio Vivaldi [1678-1741]

イタリア・バロック後期を代表する作曲家、ヴァイオリニスト、カトリック教会の司祭。500を超える協奏曲を作曲し、そのうち7割以上が弦楽の協奏曲で、その他、室内楽、オペラ、宗教音楽など数多くの作品を残した。

「四季」だが、これは「夏」から始まっている。ここが季節逆転の南半球らしいところだ。この時点でピアソラに四季を書く意識はなく、それを決めたのは次の「秋」を書いた後。4曲のなかでもっとも人気が高くフィギュアスケートの高橋大輔元選手が数年前フリー曲に使用したことも知られるのが「冬」。バランスよく心地いいヴィヴァルディに比べて、ピアソラのそれは混沌としつつも計算し尽くされた

Astor Piazzolla

1921-1992



ピアソラ後継者が映し出す「ブエノスアイレスの四季」。

バンドネオンという楽器をピアソラで知ったという人も多いだろう。バンドネオンはアコーディオンから派生したもので、リードがやや細く、蛇腹も長く伸びるなど、構造が若干違う。ガリアーノはバンドネオンも演奏するが、ボタン配列が違うため、彼は自身のバンドネオンのキーをアコーディオンのに並べ替えているのだそうだ。

実際に彼と親交をもち、ピアソラ自ら彼を後継者に指名したというのは有名な話だ。新しいタンゴを創造したピアソラと、新しいミュゼットを創造するガリアーノ。タンゴにクラシックやジャズの要素を取り入れ、ときにはエレキギターなどを加えたまったく新しいタンゴを生み出したピアソラの異名、それは奇しくもガリアーノと対をなす、ヘタngoの革命児だった——。

アストル・ピアソラ Astor Piazzolla [1921-1992]

アルゼンチンの作曲家、バンドネオン奏者、タンゴの楽団指揮者。3歳でニューヨークに移住し、バンドネオンを習得。アルゼンチンに帰国後、演奏・作曲活動を始める。独創的なタンゴによって新風を吹き込んだ。

長年のご愛読ありがとうございます。ありがとうございました。

グランシップマガジン
「G.」
終了のお知らせ

グランシップ開館以前から、グランシップ主催事業の情報を中心に
アーテイストのインタビューや文化芸術に関する話題を
広く集めておとどけてまいりました総合情報誌「G.」は、
今号をもって刊行終了となります。

長年のご愛読に心より感謝申し上げます。

2015年春には新たな情報誌の発刊を予定しておりますので
是非ご期待ください。



リシャール・ガリアーノ

1950年12月12日フランスのカヌヌ生まれ。父親からピアノとアコーディオンの手ほどきを受け、ニースの音楽院で対位法、和声、トロンボーンを学ぶ。CMA世界アコーディオンコンクールにてバッハ、チャイコフスキー、ガーシュイン、ラヴェルの楽曲を演奏し、1966年から3年連続で優勝。1969年に音楽院を首席で卒業後、1973年からパリに住み、クロード・ヌガロ、バルバラ、シャルル・アズナブール、ジュリエット・グレコ、ジョルジュ・ムスタキラ、シャンソン歌手と共演。1983年パリのコメディイ・フレンセーズで上演の舞台「真夏の夜の夢」にて、ピアソラがバンドネオンのソリストとして抜擢。以来、ピアソラとの親交は1992年のピアソラの死まで続いた。また、チェット・ベイカー、ロン・カーター等、偉大な音楽家と共演、世界中の名だたるジャズフェスティバルに出演。1993年にフランス・ジャズアカデミーよりフレンチ・ジャズ界最高の栄誉「ジャンゴ・ラインハルト賞」および「年間最優秀ジャズ音楽家賞」を受賞。



2015.2/16[月]
リシャール・ガリアーノ七重奏団
ふたつの「四季」～ヴィヴァルディとピアソラ～

- 19:00開演(18:30開場) ● 中ホール・大地
- 全席指定 S席 5,100円 A席 4,100円 こども・学生 1,000円



公演情報

2014/11-2015/3

※11月現在の情報です。出演者、天候等の都合により、公演の内容が変更されることがあります。

チケット発売中 1/29(※)・30(※)

G グランシップサポーター企画 グランシップ懐かしの映画会

日本映画の名作をフィルムで楽しめる貴重な機会。男女の心のあやや生きることのはかなさを描写した成瀬巳喜男監督の戦後代表作に触れる。



【上映作品】 「浮雲」
29日(木) 10:30~「おかあさん」 13:00~「浮雲」
30日(金) 10:30~「めし」 13:00~「乱れ雲」
■中ホール・大地
■全席自由 1日券 1,000円
2日通し券・ペア券 1,500円

事前申込制 2/1(※)

西原 稔のブラームス塾

3/20(金)の本公演をより深く楽しんでいただくために聞きどころやブラームスの生涯などわかりやすく解説。

【講師】西原 稔(桐朋学園大学教授)
■15:00~ ■地下リハーサル室
■受講料 700円 ※事前申込制

入場無料 2/13(※)・3/3(※)

高松宮妃のおひなさま展



徳川慶喜公の孫にあられる高松宮妃喜久子様ご成婚の際にお持ちになった京雛を展示。細部まで精巧に作られ、それぞれに葵の御紋があしらわれた調度品の数々も堪能できる人気の展示。

■10:00~17:00 ■6階展示ギャラリー
■入場無料

「おひなさま展」ちょこっとガイド&館内めぐりツアー

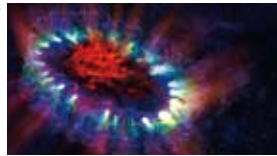
おひなさま展のガイドに加えて、普段は入れないホールの裏側や知られざるグランシップの見どころをグランシップサポーターがご案内。

■2月22日(日) 14:00~ (所要時間:約45分)
■参加無料 ※事前申込制、先着25名

事前申込制 12/23(火・祝)・24(※)

宇宙最前線!~『超新星1987A』を最新鋭望遠鏡で追う~

地球をはじめとする星の起源を知る手がかりになることが期待される「超新星1987A」の研究についての講演会。



【超新星1987Aの想像図】
ALMA (ESONAGI/NRAO)/Alexandra Angelich (NRAO/AUI/NSF)
【講師】松浦美香子
(ロンドン大学ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン 上級研究員)
■両日14:00~
■23日/浜松科学館、24日/静岡科学館へくる
■聴講無料(静岡科学館は規定の入館料が必要)
※事前申込制

申込受付終了 1/9(※)

静岡ガスPRESENTS 静響&グランシップ ニューイヤーコンサート

新春を華やかに彩る恒例のニューイヤーコンサート。世界の歌姫中丸三千繪を迎えて、オペラのアリアをお届け。



【曲目】ビゼー:カルメン組曲、
シューベルト:アヴェ・マリア ほか
■昼の部/14:00~、夜の部/19:00~
■中ホール・大地
■全席指定 1,000円 ※受付終了

チケット発売中 1/24(※)

G グランシップ静岡能

毎年恒例の「グランシップ静岡能」。今回も新春を華やかに彩る演目を、観世流能楽師がお届け。



【演目】能「頼政」
シテ 山階彌右衛門
「吉野天人 天人揃」
シテ 観世芳伸
狂言「仏師」山本泰太郎
■14:00~
■中ホール・大地
■全席指定 一般 5,100円
こども・学生 1,000円 →P10参照

事前申込制

バックステージツアー

4ヶ月間の工事休館が終了し、再オープンを記念したバックステージツアーを開催。

①11/30(※)

再オープンの前日に、グランシップの中をすみずみまで探検。館内全てのホールを一度に見学できるのはこの日だけ!



②12/20(※) 大ホール・海ほかに館内のガイドツアー

に併せて、「クリスマス・ジャズライブ」直前の中ホール舞台の様子を見学。

【定員】①100名 ②30名 ※対象:小学生以上ならどなたでも
■両日とも15:00~16:00 ■参加無料 ※事前申込制

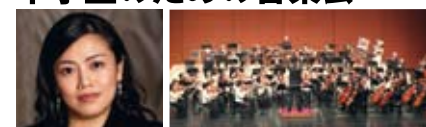
観覧無料 11/30(※)・1/12(月・祝)

グランシップの記録

~グランシップサポーター記録写真で振り返る~
撮影サポーターによって撮影された主催事業や学校等へのアウトリーチ活動の様子を写真やポスターで紹介。
■9:00~22:00 ■3階共通ロビー ■観覧無料

チケット発売中 12/10(※)・11(※)

三ツ橋敬子指揮 新日本フィルハーモニー交響楽団 中学生のための音楽会



三ツ橋敬子 ©Walter Garosi 新日本フィルハーモニー交響楽団 ©K.MIURA
県内の中学生を対象にした1時間程度のコンサート。一般のお客も手頃な料金で本格的なオーケストラ演奏を楽しめる。案内役のナレーションもあり、より一層作品の世界を味わえる。

【曲目】ムソルグスキー:組曲「展覧会の絵」ほか
■10日/14:00~、11日/10:30~、14:00~
■中ホール・大地 ■全席指定 1,000円 **全公演完売**

チケット発売中 12/20(※)

G グランシップ プレミアム・クリスマス・ジャズライブ



前田憲男 北村英治 八神純子 Jazztet
グランシップのクリスマス恒例、プレミアム・クリスマス・ジャズライブ。「音の魔術師」前田憲男がこの日の為に特別に書き下ろした5本のトロンボーンによる特別セッション。更にスペシャルゲストの北村英治、八神純子 Jazztet が贈る、クリスマスソングの数々で素敵な聖夜気分を…。

【出演】前田憲男トリオ、中川英二郎5Tトロンボーンズ
【スペシャルゲスト】北村英治(クラリネット)、八神純子 Jazztet
■17:00~ ■中ホール・大地
■全席指定 一般 5,100円 こども・学生 1,000円

「バックステージツアー①②」、「西原 稔のブラームス塾」「グランシップ懐かしの映画会 洋画劇場」、「しずおかの文化 講演会」の申込方法

電話・FAX・E-mailにて、下記宛に申込を。FAX・E-mailの場合は、参加希望のイベント名・住所・氏名・電話番号・参加人数を明記のこと。※定員に達し次第、締切。
グランシップチケットセンター TEL.054-289-9000 FAX.054-203-5716 E-mail.info@granship.or.jp

「しずおかの文化新書」 関連企画

「しずおかの文化新書」編集長・八木洋行がコーディネーターを務める恒例企画。

講演会

葦山反射炉①

葦山反射炉を築き、日本に西洋砲術を普及させた葦山代官・江川英龍(坦庵)の功績を中心に、日本近代化の端緒とも言える反射炉の持つ歴史的意義を解説。

【講師】橋本敬之(NPO法人伊豆学研究会理事長、公益財団法人江川文庫主務)

- 1月17日(土) 14:00~
- グランシップ 9階910会議室
- 全席自由 800円 ※事前申込制

葦山反射炉②

約160年前に遡る葦山の反射炉と大砲製造にまつわる10大ミステリーに工学的観点から迫る。

【講師】菅野利猛(木村鋳造所取締役開発部長、工学博士)

- 2月1日(日) 13:00~
- グランシップ 9階910会議室
- 全席自由 800円 ※事前申込制

浜松のピアノ

ピアノの生産地としてどのように浜松は世界に肩を並べるようになったのか。その苦闘の歴史と職人技術の真髄に迫る。

【講師】三浦啓市

- 3月7日(土) 14:00~
- グランシップ 9階910会議室
- 全席自由 800円 ※事前申込制

体感ツアー

葦山反射炉

世界文化遺産登録を目指す葦山反射炉にまつわる名所を訪ね、その歴史と意義を紐解く日帰りバスツアー。すず製キーホルダーづくり体験も。



【行き先】葦山反射炉、江川邸、葦山城跡、木村鋳造所 ほか

- 【集合・解散】JR静岡駅、JR三島駅
- 2月21日(土) ■旅行代金 9,980円
- 企画・申込先
- (株)日本旅行 静岡支店 054-254-8371

浜松のピアノ

世界に知られる浜松のピアノ産業を、工場見学等を通して学び、知るバスツアー。

【行き先】ヤマハピアノ工場、浜松市楽器博物館(職員によるガイド付) ほか

- 【集合・解散】JR静岡駅、JR掛川駅
- 3月13日(金) ■旅行代金 未定
- お問い合わせ
- (公財)静岡県文化財団 054-203-5714



3/8[㊤]

第28回地域文化活動賞・ 記念フォーラム

1人ひとりが地域で心豊かに生きるための「文化が持つチカラ」について皆さんと一緒に考える講演会、トークセッションを開催。文化活動のネットワークづくりや情報交換の場となる交流会も実施。

- 14:00~ ■11階会議ホール・風
- 参加料 500円



12/21(日)チケット発売開始 3/14[㊤]

グランシップ寄席 春うらら

人気実力とも兼ね備えた若手有望株の豪華共演。限定300名の会場で落語家の息遣いを感じられる空間で楽しんで下さい。



- 【出演】柳家三三、春風亭一之輔
- 14:00~ ■6階 交流ホール
- 全席指定 大人 3,300円 ども・学生 1,000円
- P11~参照



12/16(火)チケット発売開始 3/15[㊤]

グランシップ提携公演事業 琉神フェスティバル 「チカラ2015 in Shizuoka」

2007年からこれまで共演した方々と一緒に作り上げるフェスティバル。各出演者と琉神とのコラボレーションには注目!



- 14:30~ ■中ホール・大地
- 全席指定 一般 4,000円 高校生以下 1,700円



チケット発売中 3/20[㊤]

マレク・ヤノフスキ指揮 ベルリン放送交響楽団

巨匠ヤノフスキが2002年音楽監督に就任してからさらなる飛躍を遂げたベルリン放送交響楽団。円熟の時を迎えた彼らの究極のドイツ音楽を堪能できる。公演当日18:00~はチケットをお持ちの方のみが参加できるヤノフスキによるプレトークを開催。



- 【曲目】ブラームス: 交響曲第4番 小短調 作品98
ブラームス: 交響曲第1番 小短調 作品68
- 19:00~ ■中ホール・大地
- 全席指定 S席 12,300円 A席 9,800円
B席 7,200円 ども・学生 1,000円
- P16~参照



12/1(月)チケット発売開始 2/15[㊤]

グランシップ提携公演事業 静岡フィルハーモニー管弦楽団特別演奏会 「ベートーヴェンは音楽の革命家?」



音楽に革命をもたらしたと言えるベートーヴェンのオーケストラ音楽に焦点を当てたプログラム。

- 14:30~ ■中ホール・大地
- 全席自由 大人 2,000円 ども・学生 1,000円



チケット発売中 2/16[㊤]

リシャール・ガリアーノ七重奏団 ふたつの「四季」 ~ヴィヴァルディとピアソラ~

誰もが耳にしたことのある名曲ヴィヴァルディの「四季」とアルゼンチンタンゴの巨匠アストル・ピアソラの「ブエノスアイレスの四季」。アコーディオンの巨匠リシャール・ガリアーノと弦楽による一流の演奏でお届け。



- 【曲目】ヴィヴァルディ:「四季」、ピアソラ:「ブエノスアイレスの四季」 ほか
- 19:00~ ■中ホール・大地
- 全席指定 S席 5,100円 A席 4,100円
ども・学生 1,000円 →P22~参照



事前申込制 2/22[㊤]

グランシップサポーター企画 グランシップ懐かしの映画会 洋画劇場

【上映作品】10:30~「E.T.」
13:30~「カサブランカ」

- 2階 映像ホール
- 全席自由 1作品 500円 ※事前申込制



1/10(土)チケット発売開始 3/1[㊤]

グランシップ提携公演事業 静岡県現代舞踊協会 「モダンダンス 舞・あそぶ」

心躍る、身体を言葉に変える??ダンスの不思議と魅力に迫る!ゲストダンサーと共につくる、大人から子どもまで楽しめるステージ。



- 15:30~(時間が変更になりました)
- 中ホール・大地
- 全席自由 2,000円

JUST FINISHED!



28.September.2014

『人形浄瑠璃 文楽』

「わかる!文楽入門講座」終了後の太夫・豊竹咲甫大夫さんと三味線・鶴澤清志郎さん。

読者 Presents

直筆サイン入りCDをプレゼント!



11/8に開催した「グランシップ出前公演 ビッグバンド・ジャズ・フェスティバル2014」に出演した奥田“スインギー”英人&ザ・ブルースカイオーケストラが演奏、プロデュースした吹奏楽向けのジャズ演奏を紹介している「すい★パラ2014」のCDを、奥田“スインギー”英人氏のサイン入りで2名様にプレゼント。添付のハガキに住所、氏名、電話番号、プレゼント名、本誌の感想を明記の上、下記宛てに郵送を。(平成27年2月末日消印有効)なお、当選者は賞品の発送をもって発表にかえさせていただきます。
〒422-8005 静岡市駿河区池田79番地の4 グランシップG係
※30ページのハガキをご利用下さい。

平成27年度(第10期)グランシップモニター募集中!

グランシップでは、静岡県民の方からグランシップ主催事業のご意見・ご感想を聞き、今後の企画・運営等に役立てるために、モニターを募集します。

■活動内容

- ◆年間4回程度の意見交換会への出席(グランシップにて開催)
- ◆グランシップ主催事業を鑑賞してのご感想・ご意見をアンケートにて提出(1期に2公演以上鑑賞すること)

■募集期間/平成26年12月15日(月)~平成27年2月15日(日)※必着

■資格・人数/静岡県内在住・通勤の18歳以上の方(10名)

■活動期間/平成27年4月から平成28年3月まで(1年間)

■応募方法

申込用紙(グランシップホームページからダウンロード可)もしくは自由書式に郵便番号・住所・氏名・電話番号・性別・年齢を記入するとともに、グランシップに対するご意見・ご感想等を400字程度にまとめ、持参・郵送・FAX・E-mail いずれかにて下記宛先に応募してください。採用結果は3月中旬頃郵送にてお知らせします。

■お問い合わせ・お申し込み

〒422-8005 静岡市駿河区池田79番地の4
公益財団法人静岡県文化財団モニター係
TEL.054(203)5714 FAX.054(203)5716 E-mail info@granship.or.jp

SPAC-静岡県舞台芸術センター 〒422-8005 静岡市駿河区池田79-4(グランシップ内) TEL.054-203-5730 http://www.spac.or.jp

SPAC NEWS

静岡芸術劇場(ヘンシン!)記念公演 『変身』

マイムをベースにした身体表現に台詞を取り入れた独自の演出で話題を集める小野寺修二が、カフカの名作『変身』を舞台化。静岡芸術劇場のリニューアルオープンを飾る注目の舞台!



『オイディプス』(2011年) ©K.Miura

12/6(土)・7(日)・13(土)・20(土)・21(日)

各土曜日16時開演 各日曜日14時開演

静岡芸術劇場

演出:小野寺修二 音楽:阿部海太郎
原作:フランツ・カフカ 出演:SPAC

『ミス・ナイフ、オリヴィエ・ピエを歌う』

現代フランスを代表する劇作家・演出家オリヴィエ・ピエ。知る人ぞ知る超大物文化人が、幻の歌姫ミス・ナイフと成り代わるシャンソン・ライブ。これぞまさに、一晩限りの「大人のクリスマス」!



©Eric Deniset

12/23(火・祝) 17時開演 静岡芸術劇場

作詞:オリヴィエ・ピエ
作曲:ステファヌ・リーチ、ジャン＝イヴ・リヴォー
出演:オリヴィエ・ピエ(歌)
ジュリアン・ジョリー(ドラム)
オリヴィエ・バルナル(サクソ、フルート、クラリネット)
ステファヌ・リーチ(ピアノ)
セバスティアン・メル(コントラバス)

SPAC新作 『グスコブドリの伝記』

SPAC芸術監督・宮城聰が山崎ナオコーラとタッグを組み、日本の国民的作家に挑む!激動の時代を生き抜いた宮沢賢治、自伝的童話に込めた切実な願いとは!?



©新良太

資料提供:林風舎

©キバジュンイチロウ

1/17(土)・18(日)・24(土)・31(土)・2/1(日)

各土曜日15時開演 各日曜日14時開演

静岡芸術劇場

演出:宮城聰 脚本:山崎ナオコーラ
作:宮沢賢治 脚:山崎ナオコーラ
音楽:棚川寛子 出演:SPAC

チケット料金

★『変身』『グスコブドリの伝記』 チケット発売中
一般 4,100円/大学生・専門学校生 2,000円/高校生以下 1,000円
★『ミス・ナイフ、オリヴィエ・ピエを歌う』 一般 5,000円/学割 3,000円
※SPACの会特典のほか、ゆうゆう割引、ペア/グループ割引料金などがあります。

SPAC

検索

SPAC SHIZUOKA PERFORMING ARTS CENTER

芸術監督 宮城聰

スペース = 静岡県舞台芸術センター

ご予約・お問い合わせ SPACチケットセンター TEL.054-202-3399 (10:00~18:00)

TOPIC-1

「国立劇場 歌舞伎鑑賞教室」



グランシップ出前公演第一弾として、6/26(木)裾野市民文化センターで「国立劇場 歌舞伎鑑賞教室」が開催された。裾野市での歌舞伎公演は初めてということで周辺地域からも多くの方が来場し、中村扇雀、中村橋之助が夫婦役を演じた名作「ちいさんばあさん」に会場内があたたかい雰囲気につつまれた。

TOPIC-2

「人形浄瑠璃 文楽」出前講座

7/8(火)～10

(木)の3日間、

静岡市、菊川

市、掛川市の

学校等で、「人

形浄瑠璃 文

楽」出前講座

が開催された。

人形浄瑠璃 文

楽座の技芸員が、

太夫、三味線、人

形遣いについて解説を行い、

世界無形文化遺産である文楽について分かりやすく紹介した。

人形遣いの体験コーナーや実演もあり、参加者はその技術に感嘆していた。



TOPIC-3

伝統芸能普及プログラム

「触れてみよう能楽師」

7/11(金)

美しい木々に

囲まれた御殿

市場市の東山

旧岸邸にて、「伝

統

芸能普及プログラム

触れてみよう能楽師」が

開催された。

大倉流小鼓方十六世宗家大倉源次郎

氏から能楽と小鼓についてのお話を聞き、通常

一般公開されていない部屋で小鼓の体験も行われ

た。参加者は一流の能楽師から直接指導を受けることができ、貴重な時間を過ごすことができた。



TOPIC-4

しずおかの文化講演会

「水の王～古代井伊氏の実像にせまる」

7/19(土)グラン

シップ9階910会

議室にて、しず

おかの文化講演

会「水の王～古

代井伊氏の実

像にせまる」が

開催された。

古代学研究者の辰巳和弘

氏が浜名湖の湖北にある天白磐座遺跡の発掘調査

を通して推測される、井伊氏の起源について分かりやすく講演した。県内にある遺跡や歴史に関心を持つ参加者は、熱心に話に聞き入っていた。



TOPIC-5

「グランシップ 音楽の広場2014 in Fuji」



8/3(日)富士市文化会館ロゼシアターにて、真夏の恒例イベント「グランシップ音楽の広場」が出前公演で開催された。ロゼシアターの大ホールと中ホールを使用したダブルステージということで大きな注目を集め、出演者、客席が一体となった総勢約3,000人の壮大な音楽祭となった。中ホールには県内の医療福祉関係者が招待され、音楽を楽しむことで日頃の業務の疲れが癒されている様子だった。

TOPIC-6

「世界のこども劇場2014」



世界中で人気のカンパニーがやってくる夏休みの恒例イベント「世界のこども劇場」が8/5(火)に浜松市浜北文化センター、8/10(日)に森町文化会館ミキホールにて開催された。0歳児から大人まで楽しめる上質なパフォーマンスに、はじめて劇場に来た子どもたちもその世界にあつという間に夢中になり楽しんでた。出演者と交流できる時間もあり、鑑賞した子どもたちが一生懸命思いを伝えていた様子が印象的だった。

TOPIC-7

「能楽入門公演」



8/30(土)御殿場市民会館にて「能楽入門公演」が開催された。能楽の基本的な解説を聞いた後、富士周辺にゆかりのある仕舞「小袖曾我」、ダイジェスト能「船弁慶」を鑑賞した。能楽師のダイナミックな動きに700名以上の来場者は感動していた様子だった。開演前には子ども対象のワークショップも開催され、はじめて能に触れる子どもたちが摺り足や仕舞などの体験をした。ロビーでは能面展示も行われ、能楽に多面的に触れる機会となった。

TOPIC-8

「国本武春浪曲出前公演」

9～11月の期間、県

内の小中学校6校

で、「国本武春浪曲

出前公演」が開催

された。学校の先生

でも普段なじみの少

ない浪曲を、ロック調にアレンジした昔話で楽しんだり、

即興で学校のオリジナルソングを作ったり、はじめて浪曲に触れた子どもたちも、一緒に声を出したり

身体を動かしたりして楽しんだ様子だった。



TOPIC-9

「人形浄瑠璃 文楽」

9/28(日)、菊川

市制10周年を

記念して、菊川

文化会館ア

エルでユネスコ無

形文化遺産である「人形浄瑠璃 文楽」が開催

された。文楽の名作が上演され、県内外から来場

した約1,000人が素晴らしいパフォーマンスに魅了

された。昼の部と夜の部の間には、人数限定の

「わかる!文楽入門講座」が開催され、太夫の豊

竹咲甫大夫さん、三味線の鶴澤清志郎さんによる

実演と解説を間近で楽しむことができた。



TOPIC-10

「宝井馬琴監修 講談教室」

10～11月の期

間、県内の小中

学校で「宝井馬

琴監修 講談教

室」が開催され

た。子どもたち

は駅弁に見立てた机で張扇を勢いよく叩きながら、

大きな声で講談の口慣らしをリズムよく読んでいた。

最後には宝井琴星さんによるプロの講談を聴き、

楽しみながら日本語の持つ魅力や歴史に親しんだ。



グランシップアートコンペ2015 作品募集

あなたの作品で多くの人が行き交い注目する空間を飾ってみませんか?グランシップでは、施設を訪れるみなさまにアートを身近に感じていただくとともにさまざまな表現活動に携わっているアーティストを支援し、発表の場を提供することを目的に、「グランシップアートコンペ2015」を実施し、ショーウィンドウに展示する作品を募集します。詳しくはグランシップHPをご覧ください。



タイトル/昨日みた夢
制作/lemoco-layco
(グランシップアートコンペ2013入賞)

※12月25日まで、グランシップロビーにlemoco-laycoさんによるクリスマスツリーが登場!

グランシップ開館以前から幅広い活動続けているグランシップサポーター。
4ヶ月館の休館期間中も、グランシップや県内各地で活動を継続してきました。
グランシップ再オープン後も、これまで以上の活動、
おもてなしでお客様をお迎えいたします。



イベントサポーター



文化情報運営サポーター



広報サポーター



託児サポーター



いつも多くのお客様にご来館いただきまして
ありがとうございます。
これからもより多くの皆様のご来館を
お待ちしております。

グランシップサポーター一同

撮影サポーター



READER'S VIEW

●新田館長の対談を興味深
く拝見しました。実は田村さんの
ファンで退任されるのをとても残念に
思っていました。新館長の石塚氏の見識
の広さに「適任の方だな」と感じました。
益々の発展を期待しています。
〈浜松市・中谷隆雄さん〉

●私にとっては未知の世界の本のようです。
今まで関心がなかった事を少しのぞいてみ
ようと思いました。〈藤枝市・山田開一さん〉

●おばあちゃんの影響か浪曲の好きな子ど
もでした。でも最近あまり身近に体験す
るチャンスがなくて。私は虎造さんが好き
でした。国本武春さんのページを何回も繰
り返し読みました。〈静岡市・シゲちゃんさん〉

●いつも楽しみに拝見しております。静岡
でも音楽が身近に感じられて嬉しいです。
これからも楽しみにしております。
〈東京都中野区・奏にゃんさん〉

●「自分がやらなければ誰がやる」との強い
信念と志が見る人の心を揺り動かすのだ
と思います。国本氏の三味線に人間賛歌の
魂を注入してこれからも頑張つてほしいと
思います。
〈御殿場市・神山一久さん〉

●初めてグランシップマガジンを手に取りま
した。表紙の「腕のしずく」が私を立ち止
まらせ心に響きました。退職後の私への道
しるべのようでした。〈静岡市・戸塚佳子さん〉

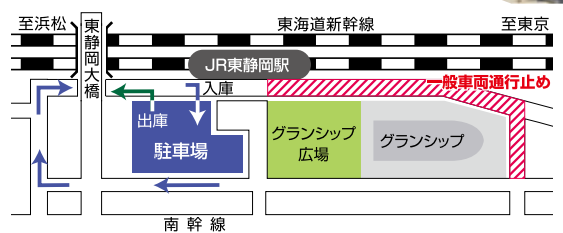
★グランシップおよび本誌「G」に関する「意見」「感
想、お問い合わせなど、皆さまからの便りをお待ちし
ています。なお、お寄せいただいたお便りは、グランシップ
発行の情報誌等に転載させていただくこともありますが、
転載不可の方は、その旨明記の上、お送りください。

Editor's room

表紙裏面の「ごあいさつ」の中でも触れましたが、今年度は9つの出前公演を県内各地で
展開してまいりました。「人形浄瑠璃 文楽」「世界のこども劇場」などは、これまで県内では
グランシップだけが開催してきたものですが、今回の出前公演にご来場いただいた皆様
には新鮮な驚きと感動を味わっていただけたのではないかと思います。また、「グランシップ
音楽の広場」では、富士市ロゼシアターの大中ホールで同時演奏を行うダブルステージコン
サートにチャレンジしました。これは、我が館でも初の試みです。これまでも学校などで音楽や
演劇等のワークショップ等に取り組んできましたが、どなたでもご来場いただける公演形式の
催事は初めてと言っても良いものでした。この経験からは多くを学び、県内の文化芸術の発展
と普及に向けて大きな可能性を見出しました。グランシップと各地域の文化施設が連携して、
様々な公演を展開することに大きな文化的な成果が見込めると考えています。今後、公演に
限らず、情報発信や文化団体の支援などにもさらに力を入れ、静岡県文化芸術の発展と
普及の中心的役割を果たすため、来年4月1日から新たな情報誌を創刊し、皆様にお届けす
ることとしました。これまでご愛読いただいたグランシップマガジン「G」は今号が最終刊となり
ますが、新たな情報誌にご期待いただいて、今後ともご愛読いただけますようお願いいたします。

グランシップ館長 石塚 正孝

グランシップにお越しの際は、
混雑緩和のため、
公共交通機関をご利用ください。



●ACCESS / JR東静岡駅南口隣接、東海道新幹線(ひかり)で東京から1時間。
大阪から2時間。JR静岡駅乗換、東静岡駅まで3分。

皆様の「想い」を刷り続けます

創業から八十余年

妥協無き品質と

モノ創りへのこだわりで

お客様の大切な「想い」を

心豊かな「色彩」で

刷り続けていきます



NIPON Label PRINTING CO., LTD.
日本レーベル印刷株式会社

本社工場：〒422-8666 静岡市駿河区国吉田三丁目1番1号
TEL.054(262)1111(代) FAX.054(262)1112
東京支社：〒104-0031 東京都中央区京橋1-1-6越前屋ビル8階
TEL.03(3272)4651(代) FAX .03(3272)8164



いいね!

ガス暖房

お客さま満足度
98%
※平成25年2月当社ガス暖房機ユーザーアンケート結果より

ガス暖房機には、こんなメリットが!

① 5秒でパワフル暖房

寒い朝や帰宅時も、スイッチオンですぐにぽかぽか!



② 給油の手間なし

燃料切れの心配もありません。



③ ニオイが気にならない

点火時・消火時のイヤなニオイもなし!



④ 安心・安全

転倒時消火装置、不完全燃焼防止装置、消し忘れタイマー*がついて安心です。

※ガスファンヒーターのみ

ウイズガス住宅 ぽかぽかプラン

「ウイズガス住宅ぽかぽかプラン」は、ガス暖房機器をご利用いただくお客さまのための暖房期限定の割安プランです。

ガス暖房っていいでしょ!?



ぽかぽかプラン

検索

くらしを考え、明日をつくる。



静岡ガス

静岡支社 静岡市駿河区池田28
TEL.054-285-2111

富士支社 富士市荒田島町10-52
TEL.0545-52-2260

東部支社 沼津市岡一色809
TEL.055-927-2811



静岡県コンベンションアーツセンター

静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ

指定管理者 公益財団法人静岡県文化財団 〒422-8005 静岡県静岡市駿河区池田79-4 TEL.054-203-5714 FAX.054-203-5716
http://www.granship.or.jp